

授業科目等の概要

医療専門課程 救急救命学科																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			文章理解	公務員試験科目の一種であるとともに、小論文や作文といった文章作成に当たり基礎から学ぶことで、正しい文章、言葉遣いを学び社会人としての基礎学力を身につける。	2後	30	2	○			○		○		
2	○			数的推理	公務員試験科目の一種であるとともに、基礎数学を理解し、薬理学計算やポンベ残圧計算などの基礎学力向上を目的とする。	2後	30	2	○			○			○	
3	○			心理学	救急医療現場における人間の心理状態は、極限状態であることが多く心理学の基礎を学ぶことにより傷病者や関係者への心理的サポートができるよう基礎心理学を修得する。	2前	30	2	○			○			○	
4	○			生化学	人体を細胞レベル、遺伝子レベルから学び、医学に結びつける。染色体などを学ぶ事で医学的知識に結びつける。	2後	30	2	○			○			○	
5	○			人体の構造	医学の基本である人体構造を一から理解し、その構造を理解することにより医学的根拠につなげられるよう、解剖学の基礎を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
6	○			人体の機能	人体構造を基に、各臓器や細胞がどのように働き、どのように機能するかを基礎から学び、医学的見解をすることにより、疾患に結びつけられるよう、解剖学における機能の基礎を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
7	○			疾病の科学	救急医療のなかで、生命の誕生から死までの生い立ちや体内の科学を学び、生きるために必要なエネルギーや細胞の働き、変異や腫瘍などといった生体科学を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
8	○			薬の科学	救急救命士が投与できる薬剤を基礎から学び、薬が及ぼす影響や薬理作用、投与経路などを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
9	○			公衆衛生概論	日本国民の出生から死までの統計学を学び、年次における出生率や死因を医学的や動態学的観点から学び、社会保障や高齢化問題等を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
10	○			救急医学総論	救急医療の歴史や医療倫理を学び、医療従事者としての自覚、責任を養う。	1前	30	2	○			○		○		
11	○			救急処置各論 I	救急救命士として必要不可欠な観察方法、バイタルサイン、基準値を理解する。	1前	30	2	○			○		○		

12	○		救急処置各論Ⅱ	救急隊員が使用する器具や救急救命処置で使用する器具の名称・使用方法や適応等を学び、救急救命実習につなげる。	1後	30	2	○			○		○				
13	○		救急症候学Ⅰ	救急医療の基本となる病態生理学をはじめ、各論を説明する。また、発生機序を含め、解剖学的、生理学的な観点からも病態を理解させる。	1前後	60	4	○			○		○				
14	○		救急症候学Ⅱ	救急医療の中で最も重症であり、救急救命処置を行わなくてはならない心肺停止からはじまり、その他の随伴症状、自覚的所見だけではなく、他覚的所見から考えられる疾患や病態生理学、各論を学ぶ。	2前1後	60	4	○			○						○
15	○		救急症候学Ⅲ	高齢者の救急、感染と救急の病態について学ぶ。また、拡大3行為（血糖測定、ブドウ糖溶液投与、心肺停止前傷病者に対する輸液）について基礎医学を習得する。	2前1後	60	4	○			○		○				○
16	○		疾病救急Ⅰ	救急疾病学の基本的理解とその対応や処置を学び、個々の疾病に対し理解を深め医学的根拠に基づき理解する。	1前	30	2	○			○		○				
17	○		疾病救急Ⅱ	疾病救急Ⅰで理解した内容を応用理解につなげ、救急現場活動時に必要となる所見を深く理解させ、応用力を養う。	1後	30	2	○			○						○
18	○		小児科学	小児の解剖生理学を理解し、小児救急における疾患を理解し、その対応や処置を習得する。	1後	30	2	○			○						○
19	○		特殊病態	分娩介助を基本に、産科救急について理解し、妊娠中における疾患や新生児における疾患、蘇生法を習得する。	1後	30	2	○			○						○
20	○		環境障害	特殊環境（熱中症・低体温・熱傷・中毒等）が人体に及ぼす影響、救急現場での注意点や病態生理学を学び、その環境に応じた処置を習得する。	2前	30	2	○			○		○				
21	○		救急救命実習Ⅰ	規律訓練から始まり、一般市民が行う心肺蘇生法といった救急処置の基本を習得する。	1前	225	5				○	○		○			
22	○		救急救命実習Ⅱ	救急隊員が使用する器具の使用法や外傷処置を学び、救急救命実習Ⅰで習得した内容を含め総合活動が行える技術を習得する。	1後	225	5				○	○		○			
23	○		救急救命実習Ⅲ	救急救命士が行う特定行為を中心に、個人手技、隊活動を行い高度救命処置の技術を習得する。	2前	225	5				○	○		○			
24	○		救急救命実習Ⅳ	内因性疾患を中心に、救急隊活動の中で救急疾患の鑑別や重症度緊急度判断を実施し適切な処置、医療機関選定を実施できる知識と技術、判断力を養う。	2後	225	5				○	○		○			
25	○		救急用自動車同乗実習	各消防本部で実施し、救急現場活動や消防の勤務等を学ぶ。	3前	45	1				○		○				○

26	○		病院実習	各医療機関で実施し、救急初療から各部署での見学や実習などを通じ医療機関収容後の医療の一連を学ぶ。	3 後	180	4				○		○		○
27	○		実践演習	公務員模擬試験、国家試験模擬試験、実践救急活動、公務員試験対策、国家試験対策等を実施各試験合格に向けて実施する。	3 後	315	21	○						○	○
28	○		基礎医学	国家試験対策とし、基礎解剖がくから応用解剖生理学までを実施する。	3 後	60	4	○				○		○	
29	○		疾病・病態学	国家試験対策とし、疾病学を中心に脳神経学や頭蓋内疾患について実施する。	3 後	60	4	○				○		○	
30	○		公務員基礎応用学Ⅰ	公務員試験合格を目指し、一般教養適正試験科目を学ぶ。	2 後	120	8	○				○			○
31		○	公務員基礎応用学Ⅱ	公務員試験合格を目指し、一般教養適正試験科目を学ぶ。	3 前	180	8	○				○			○
32	○		情報リテラシー	文書デザイン検定で身につけた技能を応用することで、ビジネスやスクールライフでより良いレポート、卒業論文、報告書などを作成することができます。表計算ソフトの操作に関して基礎的な技能を有し、日常業務において独力で表作成が	2 前後	60	4	○				○		○	
33	○		外傷処置学	救急現場における外傷傷病者に対する処置を習得する。	3 後	30	2	○	○			○		○	
34		○	医療総合	医療事務の資格を目指して学ぶ。	3 前	180	12	○				○		○	
合計					34	科目	138 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：学科の教育課程に定められた必修科目のうち、卒業学年度までに履修しな		1学年の学期区分	2期
履修方法：単位修得制		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。